

# オンライン資格確認原則義務化 医療機関の実情や問題点を 地元出身国会議員に伝える

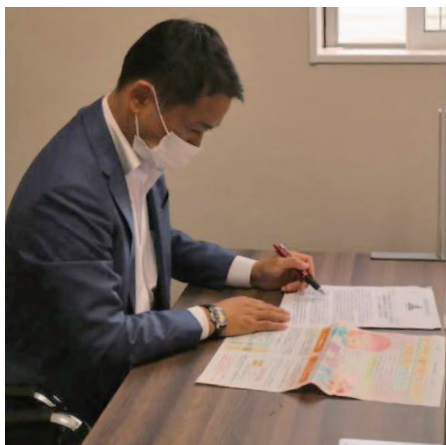
臨時国会が始まる直前の9月末、オンライン資格確認来年4月原則義務化を前に、会員医療機関が対応に苦慮している状況を保険医協会では地元国会議員に伝えた。

9月29日は青山大人衆議院議員、翌日の9月30日には小沼巧参議院議員が協会事務所を訪れ、事務局から会員アンケート調査結果の説明を受けた。

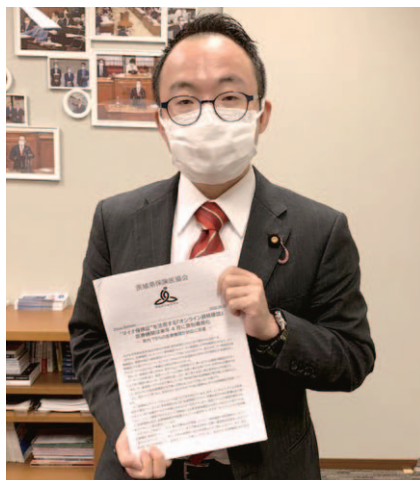
世界的な半導体不足による顔認証付きカードリーダーの不足、現状ではオンライン資格確認システムが稼働している医療機関は県内約3割であり、来年3月末までに未導入の医療機関が全てシステムを稼働させるのは無理筋であること。地域の医療機関ではセキュリティ対策も未整備のところが多く情報漏洩リスクが高いこと等々、将来的なDX化の流れは避けられないが、まずは基盤整備が最優先されることを訴えた。

10月20日には保団連の国会行動が行われ、下記の地元国会議員が、オンライン資格確認に関する説明を保険医協会より受けた。

- ・青山大人衆議院議員（秘書対応）・浅野哲衆議院議員（秘書対応）
- ・中村喜四郎衆議院議員（秘書対応）・小沼巧参議院議員（本人対応）
- ・上月良祐参議院議員（秘書対応）・堂込麻紀子参議院議員（本人対応）



協会事務所で説明を聞く  
青山大人議員



要望書を受け取る小沼功議員（左）と堂込麻紀子議員（右）